

福島県飯館村の子供たちがお寺でホームステイ

一年ぶり
に会うホ
ストファ

去る八月九日より三泊四日の日程で、原発災害で避難生活が続く福島県飯館村吉倉宿舎の子供たちを招いての高岡教区ホームステイ事業が実施された。今回は昨年続き2回目となったが、参加者が倍増し、子供二八名を含む総勢四五名、十一家族のメンバーが来県、暫し富山の自然に触れ、また交流を深めた。教区内のホストフ

ファミリーは、十
二ヶ寺（十組）。
七時間の移動
を経て西本願寺
高岡会館に到着、
礼拝堂での交流
会では、宮川教
務所長の歓迎の
挨拶に続いて、
吉倉宿舎の鳴原
自治会長が挨拶、
「高岡教区の皆
さんから、生き
がいや温かい志
を頂きとてもう
れしい」と述べ
られた。また、
昨年に続いて来
県された方は、

ミリーや教区のス
タッフとの再会を
喜ばれた。

十一日には、全員
で新湊地区の遊覧
船や富山新港に架
かる新湊大橋「あい
の風プロムナード」
での観光、海老江海
岸での海水浴を楽
しんだ。参加された
親御さんからは「子
供たちを自然の中で安心して遊ばせてやれてよかった」といった
感想が聞かれた。

二回目となった今回は、より各組での交流を深めるための取り
組みが見られ、また、それらを通じて原発被害の実態や住民の方
の深刻な思いを聞かせて頂く、よい機会となっていることを伺わ
せた。一行は十二日まで滞在、出発前には会館で最後の交流会が
開かれ、教区からのお土産や、門信徒の方からの寄付金等の贈呈
が行われ、帰路に就かれた。

企画運営に関わったキッズサンガ専門委員会では、ホストファ
ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。

ミリーとの合同で反省会を実施。今後は支援活動全体での位置づ
け等も見直すこととし、さらに充実するため引き続き協議を続け
ることとしている。



仏教婦人会連盟と寺院女性会連盟が合同実践運動研修会を開催

去る八月二十六日(月)西本願寺高岡会館において仏教婦人会連盟・寺院女性会連盟合同の実践運動研修会が開かれ、「過去帳又はこれに類する帳簿の開示問題」からの学び」というテーマで、研修が行われました。その内容を寺院女性会連盟 麻生登美委員長よりご報告いただきました。

最初に林史樹師より、「昨年NHKの番組の中で、ある寺族が『過去帳』を示し、それが放映されたことで、お寺に行けば過去帳が見せてもらえるとの誤解が流布されることになった。これまで私達の教団は、過去の反省にたち、過去帳及びそれに類する帳簿の取り扱いや門信徒の個人情報を漏洩せず、人権を守り差別に加担しない歩みを続けてきた。しかし、今回のような問題が起こったことで、単に寺院だけの問題でなく、住職、寺族、門信徒それぞれが自らの問題として学んでいかなければならない」との問題提起がなされました。

問題提起の後、参加者九十二名は、九班に分かれて、それぞれ班別に話し合いました。

班別で話し合われた主な事柄は、NHKの放映を違和感なく見ていた。過去帳が差別につながると思わなかった。ルーツを知るために自分の分かる範囲で役立てたのは厚意のつもりだろう。

過去帳は個人情報なので、開示しないことを守ってほしい。

今まで基幹運動できびしく研

修してきたので、

過去帳を簡単に見せたのは軽率だ。誰でもお寺に行ったら見せてもらえると誤解したかもしれない。

お寺は昔、役場の役目をしていたので、結婚の条件として、先祖や家柄を聞きに来られたらしい。

遠方から聞きにこられたが、消失したり洪水で流されたりしたと言って断った。

お金もつけのために過去帳が利用されるのは恐い。差別についてはピンとこなかったが、この研修を受け、今後は「みな平等である」という意識を持つて行動していきたいと思った。

親鸞聖人の御教えをしつかり学び、自分の生き方を問い直そうと思った。

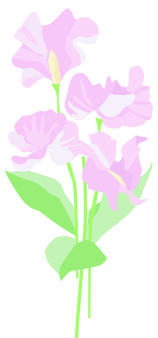
最後に、山名一徳師より、助言とまとめのお話をいただきました。「富山・北陸における部落問題の現状について」では、日常において差別の意識はあまりないように見えるが、「北陸の最近の意識調査(二〇一一年実地)の結果によると、「おつきあい」において忌避的対応を示す人が約一割もいる。また「結婚」については反対(心情的反対も含む)が約三割ある。つまり、無意識のうちに差別しているのではないか。改めて、親鸞聖人のみ教え「人々は皆平等に救われていく。差別をしない。」という日々を送ってほしいものであると述べられた。

研修会を終えて深く考えさせられ、これから私達

がすべきことを述べたいと思います。私達人間は皆、自己中心、「自愛の本能」を持っていて、優越感、自分はまだなど、自分本位の日暮らしをしています。本能のおもむくままに行動し、差別をしていることに気付かずに日暮らしをしているのではないのでしょうか。お聴聞させて頂きますと、仏様は大悲の眼で、私達の日暮らしを見ていらっしやうて、居ても立つてもおれず、おまえが浄土に生まれなかつたら、私は仏にならないぞーと、何時、何処にいても呼びかけ続けていて下さっていると味わわせていただきます。

大悲の真実の鏡に自らの姿「自己中心、他人を虐めている自分」を写しだし、「ああ、醜い自分だった。仏様に申し訳ない。」と、お念仏を申し、生活を正していく日暮らしをせねばならないと、この研修会を通して強く思いました。

煩惱障眼雖不見、大悲无倦常照我と、いつもお勤めしているお正信偈を深く味わい、御同朋、御同行の道を歩みたい、と改めて、強く思ったことでした。絶えず「真実のみ教えをお聴聞し」、あらーあらーと、醜い自分に気付き、お念仏申しながら自分の生活を正し、共に仲良く生きて行きたいものです。これから、会員の皆様方と共に、仏様の懐(ふところ)住まいをしたいと思えます。



御同朋の社会をめざす運動の「テーマ」

僧侶研修会へのお誘い

「私はずいぶんどうへ向かつか」の確かめ

今年も三回にわたって教区の僧侶研修会を開催することとなり、既に（特に事情が有りお申し出があった方を除いて）僧籍を持つ全ての方に直接、ご案内が届いていることかと思われま

す。

この僧侶研修会は、一九九二年より当時の基幹運動体制から始められ、その後も宗派をあげて全教区によって継続して開催されているものです。宗派の実施態勢は当時より若干の変更を見ているますが、当教区ではこのスタイルを継続し既に二十三回目、教区委員会としては最重要の事業と位置づけられています。

これまでも、具体的な差別問題や教団の歴史、宗祖の生き方等々から、私たち僧侶一人一人にとっての「課題」を探り、提起し、共有化を図るために様々なテーマを掲げて実施して参りましたが、今回は「仏教がさし示すもの 真俗二諦の課題に立つて」と設定いたしました。

実は「真俗二諦」を取り上げるのはこれが初めてではなく、一九九六年に一度、設定していますが、そもそのスタートであった一九九二年の「基幹運動推進僧侶研修会」の時点でも、「業・宿業」「信心の社会性」と併せて「三つの課題」として取り上げられていたことでもあります。それだけでなく、言葉としては使用せずとも、私たち（僧侶）の体質的問題として何度も取り上げてきました。「古くて新しいテーマ」として、また、生身の「わたし」が問われるという意味では常に普遍的な課題として、むしろ現代にあつてはその重要性は増している

考えられます。

その「真俗二諦」を課題にするということは、「僧侶」としての経験や知識に関わらず、全ての「お念仏を頂く者」への問いかけとしてあることと思われま

す。

今回のご案内にある「研修のねらい」は「矛盾多き現代社会の中において、仏教は何をさし示しているのか。僧侶として私たちがどのような言葉を語る事ができるのか、この研修会の中で共に考えさせていただきたいと存じます」と締められています。

世の中のあり様に矛盾を感じない人はおられないでしょう。一方で、「信心を頂いた」からといって、どんなことが起きようと超然としていられるものでしょうか。また、教えを聞きながら、その指し示す方向とは全く違ふところに私たちが向かっているのではないか。「私自身の今の姿と方向」を共々に確かめたいことと思ひます。

「としごろ念仏して往生ねがふしるしには（中略）世をいとふしるしにても候はめ」（親鸞聖人御消息・註釈版七四二頁）

「念仏して往生を願う姿」とは、「迷いの世界を厭う姿」であると親鸞聖人は仰られます。「厭う」という言葉は、「いやがる・きらう」「避ける・離れる」「いたわる・かばう・大切にする」（広辞苑）という意味ですが、私たちが「念仏の教え」を頂くということと、「社会の問題」にどう向き合うのか（向き合わないのか）が問われることと思ひます。

これからの日程 (9 / 2 0 ~ 1 0 / 2 0)

9月		
20	僧侶研修会 (1 回目)	
21	僧侶研修会 (2 回目)	
24	声明サークル	
25	僧侶研修会 (3 回目) 長寿苑ビハーラ活動	
26	公聴会	
27	高寿会研修旅行 同朋運動養成者研修会 寺青連研	
29		
30	中部地区宗教法人実務研修会	
10月		
1	ビハーラ研修会 ヤスクニ問題専門委員会	
2	寺青役員会	北陸藤の会例会 (石川教区)
3	雨晴苑ビハーラ活動	連区門徒総代協議会
4	藤園苑報恩講	(富山教区)
6	五位組浄永寺法要伝達	
7	骨董市 (~ 8 ・ 会場貸し)	連区ビハーラ研修会 (~ 8 ・ 東海教区)
9	聖典セミナー (7 回目)	
10	岐阜教区華陽組仏婦会館参拝	
11	常例法座	
15	教区コース練習日 宗会議員後援会	
19	氷見組光照寺寺院御巡教	
20	(~ 2 0)	



ラジオ放送 ~ 西本願寺の時間 ~

『みほとけとともに』

北日本放送 (K N B) ・ 7 3 8 k H z .
毎週土曜日 (本 山 制 作) 午前 6 : 1 5 ~ 6 : 2 5
第 2 ・ 4 日曜日 (富山 ・ 高岡制作) 午前 6 : 0 0 ~ 6 : 1 0

9 / 1 4 (土) : 大嶋健三郎 氏 × 花岡尚樹 氏
(あそかビハーラクリニック院長 × 常駐僧侶)

「お坊さんがいる病院」

9 / 2 1 (土) : 大嶋健三郎 氏 × 花岡尚樹 氏
(あそかビハーラクリニック院長 × 常駐僧侶)

「出会い別れていく中で」

9 / 2 2 (日) : 竜川知哉 氏 (富山教区 ・ 圓光寺)

9 / 2 8 (土) : 山本成樹 氏 × 花岡尚樹 氏
(あそかビハーラクリニック常駐僧侶 × 常駐僧侶)

「あたたかい涙」

1 0 / 5 (土) : 山本成樹 氏 × 花岡尚樹 氏

(あそかビハーラクリニック常駐僧侶 × 常駐僧侶)

「生き抜く場所」

1 0 / 1 2 (土) : 大嶋健三郎氏 × 新堀いずみ氏

× 花岡尚樹氏 (あそかビハーラクリニック院長 ・ 看護
部長 ・ 常駐僧侶) 「未 定」

【西本願寺高岡会館10月の常例法座】

ご講師: 栗山宣雄氏

(高岡教区 ・ 本福寺)

ご講題: 『 未 定 』

午後 1 時 2 0 分頃からビデオ上映、2 時から
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱 (1 7 5 袋) 7 , 0 0 0 円

・大 箱 (4 5 袋) 2 , 0 0 0 円

・小 箱 (1 6 袋) 9 0 0 円

お申込み先は・・・〒933 - 0003 高岡市能町 1 2 9 8

耳浦 康真 (本誓寺) Tel. & Fax. (0 7 6 6) 2 3 - 9 8 2 2

編集後記

一〇二〇年の夏季オリンピックに東京で開催されることが決まりました。前回招致に失敗しているので、多くの方々が待ちに待った吉報だと思います。一方で、東北の復興や東京電力福島第一原発の汚染水漏れも未だ道半ばであるのに開催？という声も多くあります。

安倍首相が招致演説で、「今までも現在も将来も全く問題ない」と訴えていましたが、現在も苦しんでいる方々がたくさんおられるのに・・・と思いますが、東京オリンピックが開催されるまでに、本来の意味で原発問題が解決し、東北の復興がより進み日本が自信を持って世界の方々を“おもてなし”できるようなっていかれたらと思います。

(担当)